

# 保育内容総論における模擬保育と学生の学び

上月 智晴

## I 研究の目的

平成29年10月に策定された新しい教職課程では、科目区分の大括り化が図られ、教科の専門的内容と指導法の一体的学びを可能にするものとなっているが、幼稚園の養成課程においては、従来の「保育内容の指導法」に加えて領域論を専門的に学ぶ「領域に関する専門的事項」が合わさり、「領域及び保育内容指導法」という科目区分となって、より幼稚園の教育内容に即した実践的指導力の展開が可能なカリキュラム構成となっている。

教職課程コアカリキュラムに位置づいている保育内容の指導法は、5領域一括で共通的に修得すべき資質能力が示されているが、その一般目標である「幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける」ための到達目標の1つとして「模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている」ことが求められている。教職課程コアカリキュラムは、全国の大学等における教職課程の質的水準の確保を行うために策定されたもので、各大学で共通的に修得すべきものとされていることから、シラバスの作成に当たってはコアカリキュラムの全体目標、一般目標、到達目標の内容を修得できるよう授業を設計することが求められる。近年、学生の学修意欲や保育実践力の向上、理論と実践の融合等を目的に教育・保育実習の事前事後指導や、保育・教職実践演習、保育内容指導法の各領域科目、体育・音楽・造形等の実技系科目など、さまざまな科目において模擬保育が取り入れられているところであるが、今後、益々、保育者養成校において模擬保育を取り入れた授業が増えていくだろう。

模擬保育に関する先行研究を概観すると、その意義や有用性を明らかにしているものが多数あるが、その中で、模擬保育の適時性や取り組む上での課題が指摘されている。たとえば、田爪・小泉（2006）によれば、模擬保育を経験することによって、学生の「保育者アイデンティティ」を確立させることに一定の効果がある一方で、それを拡散（保育職志望動機、保育に対する自信を低下）させる事実があることも指摘されている。田爪・小泉は、保育実践に対する基礎的認識が不十分なまま模擬保育を行うことが「保育者アイデンティティ」の拡散を助長する可能性があるとして、どの段階で模擬保育を行うか、学習の適時性・反復性などについて検討の必要性を示唆している<sup>1)</sup>。また、中田・柳瀬・渡邊（2014）は、模擬保育が座学だけでは得られない保育者の援助や保育内容に関する気づき

が得られる一方、現場経験が不十分な状態で模擬保育を行うことは、実際に子どもの状況に即した効果が得にくいこと<sup>2)</sup>、池田（2013）も、中高校生を想定した模擬授業と比較して、反応や行動を予測しにくい幼児を対象とする模擬保育の難しさを指摘し、保育実践力を高めるためには実際に子どもを前にして行われることが望ましいと述べている<sup>3)</sup>。これらのことを考えると、保育に関する基本的知識が浅く、また実習経験のない段階で、学生同士で保育者役・子ども役になつての模擬保育をする場合は、模擬保育の目標設定の置き方や、模擬保育の準備・状況づくり、模擬保育後の振り返りの持ち方などにおいて、どのような工夫を行えばよいか、実施する科目で求められる目標とも合わせて十分に検討する必要性が示唆される。

筆者は、自身が担当する「保育内容総論」の授業で8年間模擬保育を行ってきた。これは4年制大学の2年次前期開講科目で、2年次夏の保育所実習（学生にとっては初めての現場実習）の前に行われるものである。初めての实習とは言え、実習で課題となる責任実習や指導案の立案等に向けて、少しでもリアリティーのある学びを実現したいという思いで模擬保育を取り入れている。年々、遊び経験の乏しい学生の増加を感じることも、たとえ学生同士であっても子どもの気分になって幼少期の遊びを実体験することは意義あることと考えている。

そこで本研究においては、筆者が担当する「保育内容総論」で行っている模擬保育の実践を検討することを通して、保育に関する基本的知識が浅く、実習経験のない段階の学生が、どのような学び・気づきを得ているのかを、模擬保育後に学生が記述する「振り返りシート」と「最終レポート」から読み取り、考察することを目的とする。

## Ⅱ 研究方法

### 1. 調査対象となる授業の概要

「保育内容総論」は幼稚園教諭免許及び保育士資格必修科目で、2年次前期に3クラスに分けて開講している。受講人数は1クラス35名前後で、いずれも筆者1人が担当している。授業の到達目標は、以下の3点で、表1は平成30年度の「保育内容総論」の授業計画である。

〈「保育内容総論」の到達目標〉

- ・保育内容の5領域のねらい及び内容を総合的に理解し、具体的な指導を構想することができるようになる。
- ・遊びを通しての学びを理解し、発達を見通した指導計画の作成方法を知ることができる。
- ・模擬保育を通して、園生活の具体的な場面に即した指導について知ることができる。

表1 「保育内容総論」の授業計画

第1回：オリエンテーション	—保育内容総論を学ぶ意義、グループ分けなど—
第2回：保育内容とは何か	—領域の考え方、遊びを通しての総合的な指導—
第3回：教材研究の重要性	
第4回：手遊びの実践体験	—手遊びを例に発達と総合的な視点を考える—
第5回：手遊びの実践体験	—手遊びを例に子どもへの導入と展開を考える—
第6回：指導案の重要性	—具体的な子どもの姿、発達を捉えて指導案を考えること—
第7回：模擬保育の課題提示	
第8回：指導案の作成①	—おもに「ねらい」「内容」「活動の流れ」の検討を中心に—
第9回：指導案の作成②	—おもに「環境構成」「子どもの姿の予測」「指導援助」の検討を中心に—
第10回：指導案のプレゼンテーションと模擬保育実施グループの選考	
第11回：模擬保育①	—4歳児クラスをイメージして—
第12回：模擬保育①の振り返りと評価	
第13回：模擬保育②	—2歳児クラスをイメージして—
第14回：模擬保育②の振り返りと評価	
第15回：まとめ	—保育内容を豊かに展開するために大切なこと—

## 2. 模擬保育の実施方法

### (1) 模擬保育の課題内容と実施するまでの準備

15回の授業の内、模擬保育を実施したのは2回で、授業終盤の第11回目と第13回目に行った（「保育内容総論」に初めて模擬保育を取り入れた2012年度は、受講者全員が保育者役（グループ単位で）を経験することを重視して、15回の授業の内10回を模擬保育に当てたこともあるが、模擬保育を終えた後の振り返り時間が十分に持てず、実践の省察が未消化に終わる問題を感じたため、学生全員が保育者役を経験することより、模擬保育を終えての振り返りに十分な時間を確保することを優先し、改善した）。

2回の模擬保育を実施するにあたっては、指導案の作成を学生全員（5～6人のグループ単位で）に課題として義務づけた。時間の制約上、実際には学生全員が保育者役を経験することはできないのであるが、本科目で指導案の立案について理解させることが到達目標の1つでもあることと、たとえ、保育者役ができなくても、共通のテーマで指導案を立案することで、実際に保育者役をした学生と同じ視点・同じ感覚で模擬保育を振り返ることが可能となると考えた。

学生には表2のような「模擬保育の主活動を考えるにあたっての課題」を7回目の授業で提示した。第11回目で行う模擬保育①は「4歳児クラス」を対象で「運動遊び」を主活動に、また第13回目で行う模擬保育②は「2歳児クラス」を対象で「造形遊び」を主活動に課題設定したものとなっている。模擬保育とは言え、少しでもリアルな保育実践に近いものとなるよう、それぞれ、単なる4歳児、2歳児ではなく、そのクラスの子どもたちが今どのようなことに興味・関心や経験を持っているのか、クラスの先生の思いとともに状況設定しており、学生にはできるだけこれらを踏まえて、ねらい・内容等、指導案を作成するよう伝えた。さらに、実習で課題となる責任実習に近いイメージで模擬保育できるように、それぞれの主活動の前に、朝の会を入れることも課題とした。複数の活動を組み合わせた模擬保育を行うことは、総合的に保育内容を学ぶ「保育内容総論」の目標でもある



表2 模擬保育の主活動を考えるにあたっての課題（①②どちらかを選択して指導案を立案する）

<p>模擬保育①「4歳児クラス（きりん組）の子どもの様子と主活動テーマ」</p> <p>4歳児クラスになって身体をたくさん動かして活発に遊ぶ姿が見られるようになってきたきりん組の子どもたち。最近では、先生と一緒に仲良しの友達が集まって、数名ずつですが、「丸鬼」や「長なわ跳び」「まりつき」をして楽しんでいます。8月X日の「設定遊び」では、クラスみんなで身体を動かして楽しめる遊びを考えたいと思います。しかし、けんとう君、りょうま君は、お部屋で「ブロック遊び」（よくロボットや乗り物を作っている）をすることが多く、かすみちゃん、すずちゃんも「ままごと遊び」（お母さんごっこ、レストランごっこ、お料理を作ったりしている）をすることが多く、あまり身体を動かして遊ぼうとしがりがありません。この子どもたちと一緒に、身体を動かして遊びたくなる遊び、援助を考えてください。また、子どもたちはみんな絵本が大好きで、最近「おばけ」が出てくるものに興味を持っています。</p> <p>子どもの人数は20名、保育者は3名体制で模擬保育の指導案を考えてください。</p>	<p>模擬保育②「2歳児クラス（うさぎ組）の子どもの様子と主活動テーマ」</p> <p>2歳児クラスになってから親しんでいるクレパスを、この頃は自由遊びの時間によく引き出しから出してきて、なぐり描きをして楽しんでいる子どもたち。8月X日の「設定遊び」では、クレパスを使って楽しめる簡単な「造形遊び」を考えたいと思います。最近では、のりやはさみも少しですが経験するようになってきたので、それらも用いても構いません。できれば出来上がった作品で夏らしい壁面装飾にできればと考えています。</p> <p>子どもの人数は20名、保育者は4名体制で模擬保育の指導案を考えてください。</p>
--	---

からである。朝の会では手遊び、歌、朝のあいさつ、出席確認を必ず入れること、その他、絵本読み等入りたい活動があれば自由に加えても構わないが、模擬保育は、主活動は20～30分、朝の会10～20分、合わせて35～50分の範囲内でできることを条件とした。

学生はグループ単位で、模擬保育①・②の内のどちらか1つを選択し（1クラスには6つのグループあり、模擬保育①・②の選択希望がそれぞれ3グループずつ分かれるよう調整）、第8回～第9回の授業にかけて指導案を作成し、第10回目の授業でプレゼンテーションを行い、各グループが考えた指導案を発表し、質疑応答を行った。その後、学生たちが最も楽しく展開されるだろうと考えたグループの指導案を、投票形式で模擬保育①模擬保育②に対してそれぞれ1つずつ選び、その評価された指導案を作成したグループの人たちに保育者役になってもらって、実際に第11回目と13回目の授業で実践した。表3-1、表3-2は各グループが実際に考えた指導案（「朝の会の流れと主活動の内容」）である。

## （2）模擬保育実施回の流れと振り返り

模擬保育実施回の流れは表4のとおりである。まず、模擬保育を始めるまでの準備に30分弱ほどの時間をかけた。ここで、当日の役割を確認（保育者役1グループ（誰が保育者役をするかはグループ内で相談）・子ども役3グループ・観察役2グループで、子ども役と観察役は模擬保育①②で交替し経験）した後、教員がその日の指導案を見て考えた子どもの具体的な姿やつぶやきを、子ども役の学生に伝え、子ども役を行う上での助言を行った。多くの先行研究で、模擬保育は子ども役がカギであることが指摘されている（たとえば高原・瀧・矢野2016<sup>4)</sup>、林2017<sup>5)</sup>、井口2018<sup>6)</sup>）ように、乳幼児と接する経験の乏しい学生が少しでも実際の子どもに近い言動が取れるようにと考えたからである。模擬保育①の課題では、あらかじめ個性のある子どもも設定しているので、その役を誰がするのも模擬保育前に打ち合わせした。教員からアドバイスした子どもの言動以外にも、その年齢の子どもであればするかもしれないと思われることは自発的にしてもいいこと、また、あ

表 3-1 模擬保育①の指導案作成課題で各グループが考えた「朝の会の流れと主活動（運動遊び）」

	グループ a	グループ b	グループ c
A クラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・手遊び「ひげじいさん」</li> <li>・歌「おはよう」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・ゲーム「かもつれっしゃ」</li> <li>・歌「おばけなんてないさ」</li> <li>・手遊び「はじまるよ」</li> <li>・絵本「おばけのアイスクリームやさん」</li> <li>・歌「おばけなんてないさ」</li> <li>○主活動</li> <li>・おばけのアイスクリームやさんリレー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・歌「アイアイ」</li> <li>・八百屋さんゲームで出席確認</li> <li>・手遊び「ゴリゴリかき氷」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・絵本「おばけのパーティーよーい ドロン」</li> <li>○主活動</li> <li>・トントントンおばけさん</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・歌「朝のうた」</li> <li>・あいさつ</li> <li>・歌「おはようのうた」「アイスクリーム」</li> <li>・手遊び「変身ごっこ」</li> <li>・出席確認</li> <li>○主活動</li> <li>・おばけバスケット</li> </ul>
B クラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・歌「朝のうた」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・歌「おばけなんてないさ」</li> <li>・手遊び「ようかいウォッチ」</li> <li>・絵本「おまつりおばけ」</li> <li>○主活動</li> <li>風船遊び、風船リレー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・手遊び「バスごっこ」「カレーライス」</li> <li>・歌「おばけなんてないさ」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・歌「おばけなんてないさ」</li> <li>・絵本「おまつりおばけ」</li> <li>○主活動</li> <li>長縄あそび（プロペラ跳び、郵便屋さん）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・歌「おはよう」「アイスクリームのうた」</li> <li>・手遊び「むっくりくまさん」「ひゆるひゆるおばけ」</li> <li>・絵本「おまつりおばけ」</li> <li>○主活動</li> <li>ひゆるひゆるおばけ鬼ごっこ（おばけの衣装を作って）</li> </ul>
C クラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・歌「朝のうた」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・手遊び「はじまるよ」</li> <li>・絵本「おばけかぞくのいちにち」</li> <li>・歌「おばけなんてないさ」</li> <li>○主活動</li> <li>ルール遊び「おばけかぞくのいちにち」（おばけの衣装を作って）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・あいさつ</li> <li>・歌「おはよう」</li> <li>・八百屋さんゲームで出席確認</li> <li>・手遊び「1ぴきおばけ」</li> <li>○主活動</li> <li>・マークにひっこし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・歌「朝のうた」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・歌「アイスクリームのうた」</li> <li>・手遊び「はじまるよ」</li> <li>・絵本「ばけばけばけばけばけたくん」</li> <li>○主活動</li> <li>・おばけのダンス（おばけの衣装を作って）</li> </ul>

表 3-2 模擬保育②の指導案作成課題で各グループが考えた「朝の会の流れと主活動（造形遊び）」

	グループ d	グループ e	グループ f
A クラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・歌「おはようクレヨン」</li> <li>・歌「おばけなんてないさ」</li> <li>・手遊び「いわしのひらき」「さかながはねた」</li> <li>・絵本「きんぎょがにげた」</li> <li>○主活動</li> <li>・魚づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・手遊び</li> <li>・歌「朝の歌」「どんな色が好き」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・手遊び「いわしのひらき」</li> <li>○主活動</li> <li>・魚、タコ、クジラの模様塗り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・歌「朝の歌」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・手遊び「バスごっこ」</li> <li>・絵本「ひまわりばたけ」</li> <li>○主活動</li> <li>・ひまわり畑づくり</li> </ul>
B クラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・歌「おはようのうた」</li> <li>・手遊び「かき氷」</li> <li>・絵本「おまつりおばけ」</li> <li>○主活動</li> <li>・花火とかき氷づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・歌「朝のうた」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・手遊び「水中メガネ」</li> <li>○主活動</li> <li>・海の生き物をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・手遊び「海に行ったよ」</li> <li>・歌「水遊び」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>○主活動</li> <li>・じゃばらうちわをつくろう</li> </ul>
C クラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・歌「朝のうた」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・手遊び「ミックスジュース」</li> <li>・歌「どんな色が好き」</li> <li>・絵本「ぺんちゃんおかしごおり」</li> <li>○主活動</li> <li>・かき氷づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・手遊び「海の生き物」</li> <li>○主活動</li> <li>・海の世界をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会</li> <li>・歌「おはようのうた」</li> <li>・手遊び「ひげじいさん」</li> <li>・あいさつ、出席確認</li> <li>・絵本「ちっちゃなおさかなさん」</li> <li>○主活動</li> <li>・海のお友達をつくろう</li> </ul>

（※太線で囲まれたものが実際に模擬保育で選ばれたものである。実際のグループ名はアルファベットではなく果物や乗り物）

表4 模擬保育実施回の流れ

① 模擬保育準備（役割の確認、教員から子ども役への助言など）	約25分
② 模擬保育の実施	約35～50分
③ 模擬保育の片づけ・振り返りシートの記入	約15～30分

表5 模擬保育振り返り回の流れ

① 振り返りシートの返却とグループディスカッション	約15分
② 全体ディスカッション	約60分
③ 教員のまとめ	約15分

まりに保育者役の学生が対応に困っているようであれば、子ども役の演技も加減してあげてほしいことを伝えた。保育者役をする学生には、教員が子ども役への助言を行っている間、別室で模擬保育前の最後の打ち合わせをして待ってもらった。また、観察役には保育者と子どものかかわり、全体の動きを把握できるよう、子どもに近づいたり離れたり、自由に立ち位置を考えて、メモをとりながら観察が傍観にならないように、積極的に観察するように伝えた。

模擬保育を行った後は、残った時間で振り返りシートを記入してその日の授業は終了する（日によっては模擬保育が長引いて授業内で振り返りシートを書く時間が取れない場合があり、その時は翌日までに提出）。振り返りシートはB5サイズ用紙1枚（自由記述）で、模擬保育を振り返って、良かった点、反省点、気になった点などを挙げ、考察を書かせた。過去の年度の授業で、具体的な評価項目を設定し5段階で自己評価・他者評価を付けるワークシートを用いたこともあるが、点数化によって客観視できるメリットがある一方で、低評価がついたときは学生の前向きな振り返りにつながりにくいことを感じたので、ここ数年は自由記述の振り返りシートを活用している。初めての模擬保育でもあるので、評価項目を示さず、まずはどんなことに注目して保育を振り返ればよいのかを自分たちで見つけ出すことも意味あることと考えた。

振り返りシートは、次週の授業「模擬保育の振り返りと評価」（全体での討議・省察）までに教員が目を通し、学生に返却する。全体での振り返りは表5のような流れで行う。いろいろな立場からの気づきを交流するが、特に模擬保育がうまくいかなかったときに、保育者役が過剰に落ち込まないよう良かった点を必ず押さえるようにすることと、保育者役をした学生が一番どうしていいかわからなかったことを優先的に振り返りのテーマのひとつに設定し、クラス全体で次への課題・改善を考えるよう努めた。また、必要に応じて、教員が模擬保育中に撮影したビデオを用いて、討議を行った。

### 3. 模擬保育における学生の学び・気づきについての分析方法と視点

模擬保育終了直後に個人で書いた「振り返りシート」の記述と、模擬保育の翌週にクラス全体で討議し振り返った後に書かせた「最終レポート」の記述を分析対象とする。最終

レポートのテーマは、「保育内容を楽しく展開する上で大切だと考えること～模擬保育とその振り返りを通して気づいたこと～」で、15回目の最終授業で提出を課したものである（分量はA4用紙1枚）。

振り返りシートは、平成30年度「保育内容総論」3クラスの履修学生106名の内、模擬保育①模擬保育②両方に出席した99名分の2回分198枚、最終レポートは提出期日までに提出のあった101名分101枚である。

振り返りシート、最終レポートともに自由記述であるが、振り返りは指導計画との関連の中で考えることが重要であると考えため主として指導案作成項目である以下のような視点から、学生が模擬保育をどのように振り返っているかを読み取り、その学びを捉えることとした。

〈振り返りシート・最終レポートの分析の視点〉

1. ねらい・内容の設定に関すること
2. 活動の流れと時間配分に関すること
3. 環境構成に関すること（物的・空間的）
4. 環境構成に関すること（人的）
5. 子どもの姿の予想に関すること
6. 保育者の援助、言葉かけに関すること
7. 職員間の連携に関すること
8. 事前準備・事前練習全般等に関すること

上記の内、「事前準備・事前練習全般等に関すること」は指導案作成項目とは言えないが、保育を楽しく展開する上で重要な事柄であるので、分析の視点に加えた。また、「職員間の連携に関すること」は、「保育者の援助、言葉かけに関すること」に含めて考えることもできるが、学生のレポートには、それが「事前準備・事前練習全般に関すること」とともに語られていることも多く、「職員間の連携に関すること」を別に分けて、読み取ることとした。

なお、今回、分析対象の資料である振り返りシートの原本は学生に返却済みであり、写しを用いて行った。表6は、それぞれのカテゴリーごとに、実際の学生の記述例を示したものである。

### Ⅲ 結果と考察

#### 1. 模擬保育を終えた直後の振り返りシートに見られた学生の気づき

表7-1は模擬保育を終えた直後の振り返りシートに見られた学生の気づきを示したものである。模擬保育①で最も高い割合を示しているのは「保育者の援助、言葉かけに関すること」（96.0%）が圧倒的に高い。次に「環境構成に関すること（物的・空間的）」（50.5%）で半数程度の割合が、「活動の流れと時間配分に関すること」（44.4%）と「環境構成



表6 模擬保育直後の振り返りシートに記載された学生の記述例

カテゴリー	記述例
事前準備・事前練習全般に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いざ、前に出てみると声が出ず、はずかしさ反応を確かめず手早く終わらせてしまった。普段から人前に立つことが少ない点や本番までの練習の不足が原因であると感じた。（模擬保育①保育者役）</li> <li>・ 事前にルールを知らない人相手に説明の練習をしたりすれば良かった。（模擬保育①保育者役）</li> <li>・ 1回指導案を書いて満足するのではなく、何度も見直し修正を加えて、自分のものにしていくことが大切だと感じました。（模擬保育②保育者役）</li> </ul>
ねらいと内容の設定に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年齢、発達にあわせた遊び、絵本を選ぶことが子どもの興味を引けることがわかった。（模擬保育①観察役）</li> <li>・ 今回のねらいが色に関心を持つことでもあるので、自分の好きな色だけでなく他の色にも興味を持つきっかけになると思いました。（模擬保育②観察役）</li> </ul>
活動の流れと時間配分に反すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おばけの衣装づくりから鬼ごっこに入っていく流れは自然で非常に良かった。（模擬保育①子ども役）</li> <li>・ 手遊びから絵本、そして造形活動の流れが魚に統一されていて良かったと思う。（模擬保育②子ども役）</li> <li>・ 子どもたちのペースに合わせて進めていくことはもちろん大切だけど、次の活動に取り組むためにどう切り替えて誘導するか時間管理や段取りも重要になると感じた。（模擬保育②観察役学生）</li> </ul>
物的・空間的な環境構成に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かもつ列車を歌って移動する时机と机の間が狭かったからか、本来の楽しみ方が難しそうだったため、広い場所にするか、選曲を考えてみるか環境構成に配慮すべきだと思った。（模擬保育①観察役）</li> <li>・ おばけの目とか口とかテーブルの上に先に置いてあったのできつと子どもだったら話を聞かずに触るだろうなと思った。（模擬保育①子ども役）</li> <li>・ 環境構成も前回の模擬保育のよかった点を取り入れて、絵本を読むとき壁側を向いたことも良かった。（模擬保育②観察役）</li> </ul>
人的な環境構成に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの「〇〇したい」と言ったとき、保育者の表情が少しこわばっていた場面がちよくちよく見られたので、顔には出さない方がよかったなと感じました（模擬保育①観察役）</li> <li>・ 恥ずかしがらずに堂々とするのはできたと思う（（模擬保育①保育者役）</li> <li>・ 一人ずつ保育者が一つのテーブルについてグループ内の子どもを見渡せる場所にいるのは良いと思った。（模擬保育②観察役）</li> </ul>
子どもの姿の予想に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬保育を振り返って気づいたことは子どもの反応をより多く予想し、それに対応できるように考えておくことが重要であり…（模擬保育①観察役）</li> <li>・ 模擬保育を振り返って予想していなかった子どもの行動が多くあることがわかりました。（模擬保育①子ども役）</li> <li>・ 子どもの言動は想像できない部分もあるけれど、できる限りの想像がいかに大切か模擬保育を通して感じた。（模擬保育②観察役）</li> </ul>
保育者の援助、言葉かけに関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵本（おばけのアイスクリームやさん）の読み聞かせ時に子ども絵を見て「ばんざいしてる」と言ったとき、戸惑いながらも「本当だね」と共感したり、うさぎの真似をしてピョンピョンしたりしても注意せず、「この動物はどんな動きをするかな？」などうまく次に促してほしかった（模擬保育①子ども役）</li> <li>・ 「あばけになれるよ！」や「アイスがとけちゃう！」というように声掛けの中に子どもが楽しめるような工夫があり、様々なバリエーションで声掛けしていたのが良かった。（模擬保育①観察役）</li> <li>・ 子どもが興味を持てるような援助をもっと考えておくべきだった。（模擬保育①保育者役）</li> <li>・ 私は出席確認のとき退屈になって友だちにちょっかいを出す役だったのですが、対応してくれたものの解決になる言葉かけがもう少しあったらよかったと思いました。（模擬保育②子ども役）</li> <li>・ ちゃんと小さな発言でも見逃さずしっかり子ども役の子に寄り添ってくれていて安心して遊ぶことができた。（模擬保育②子ども役）</li> <li>・ どのような状況になっても臨機応変に対応できるようになりたいと思いました。（模擬保育②保育者役）</li> </ul>
職員間連携に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者役の一人が本を読んでいて、もう一人の人は次の遊びの準備に取り掛かっていたので、連携ができていたと思いました。（模擬保育①観察役）</li> <li>・ 部屋を移動する際は先生が3人先頭についていたが、誰か一人一番後ろにいた方が良いのではと思った。（模擬保育①観察役）</li> <li>・ 遅い子に合わせすぎたら早い子が暇でわちゃわちゃして、他の先生との連携ができず、それぞれが子どもに集中しすぎて全体が見えていなかったのが反省点です。（模擬保育②保育者役）</li> <li>・ 1つのテーブルが大変そうな様子が見受けられれば、他のテーブルにいた保育者も加わるなど連携がよくとれているなと思った（模擬保育②子ども役）</li> </ul>



に「関すること（人的）」(40.4%)は約4割台、そして「職員間の連携に関すること」(25.3%)、「事前準備・事前練習全般に関すること」「子どもの姿の予想に関すること」(いずれも20.2%)と続き、「ねらい・内容の設定に関すること」への着眼は8.1%と少なくなっている。

模擬保育②では上位2つの「保育者の援助、言葉かけに関すること」(96.0%)、「環境構成に関すること（物的・空間的）」(54.5%)は、模擬保育①と同じような割合で並んでいるが、それ以降は「職員間の連携に関すること」(39.4%)、「活動の流れと時間配分に関すること」(38.4%)、「子どもの姿の予想に関すること」(23.2%)、「事前準備・事前練習全般に関すること」(22.2%)、「環境構成に関すること（人的）」(20.2%)、「ねらい・内容の設定に関すること」(15.2%)と、模擬保育①の気づきと若干違ったものとなっている。

模擬保育①模擬保育②どちらも「保育者の援助、言葉かけに関すること」への気づきが他の事柄と比して群を抜いて高く、ほとんどの学生がこの点に着眼して振り返りを行っているということが特徴的であるが保育者の子どもへの直接的な援助や言葉かけは、どのような活動を模擬保育のテーマにするにしても、学生が一番注目し、気になる場所なのであろう。次いで、「保育者の援助、言葉かけに関すること」ほどではないが、模擬保育①模擬保育②ともに「環境構成に関すること（物的・空間的）」が、5割台と比較的多くの学生が着眼している。これは、保育に必要な材料や準備物など、物的環境は自然と目に入り、視覚的に気づきやすいことが関係していると考えられる。たとえばある保育者役学生が妖怪ウォッチの手遊びをする際に、妖怪キャラクターをきれいに描いた手づくりのペーパーサートを使っのクイズで導入を行ったが、振り返りシートにはそれを評価する記述がたくさん見られた。

一方、学生の気づきが模擬保育①②ともに低い事柄として、「ねらい・内容の設定に関すること」「事前準備・事前練習全般に関すること」と「子どもの姿の予想に関すること」が挙げられる。これらは逆に上記の2つに比べて目には見えにくいものであり、学修経験が浅く、保育経験のない学生には自覚しにくい観点であることが伺える。

「活動の流れと時間配分に関すること」は模擬保育①②ともに約4割の学生が気づいている。この割合が大きい小さいかは何とも言えないが、学修経験が浅く、保育経験のない学生であることを考えると、比較的多くの学生が気づいているのではないと言える。

1つの活動だけでなく、複数の活動を組み合わせての課題にした「保育内容総論」の模擬保育の効果が表れていることも推察される。

模擬保育①模擬保育②の割合を比較して、その差が最も大きいものは、「環境構成に関すること（人的）」で、模擬保育①よりも模擬保育②で半減している(40.4%→20.2%)。これは、運動遊びが主活動テーマである模擬保育①で高く、運動遊びが、安全に注意すべき保育者の立ち位置を考えたり、子ども役が楽しく身体を動かすために、保育者役自身が楽しそうに身体を動かすことが必要であったりすることが関係している可能性が考えられ

表7-1 模擬保育①②の直後の振り返りシートに見られた学生の気づき

カテゴリー	模擬保育①(N=99)		模擬保育②(N=99)	
	件数	%	件数	%
ねらいと内容の設定に関すること	8	8.1%	15	15.2%
活動の流れと時間配分に関すること	44	44.4%	38	38.4%
環境構成に関すること（物的・空間的）	50	50.5%	54	54.5%
環境構成に関すること（人的）	40	40.4%	20	20.2%
子どもの姿の予想に関すること	20	20.2%	23	23.2%
保育者の援助、言葉かけに関すること	95	96.0%	95	96.0%
職員間の連携に関すること	25	25.3%	39	39.4%
事前準備・事前練習全般に関すること	20	20.2%	22	22.2%

表7-2-1 模擬保育①直後の振り返りシートに見られた学生の気づき（役割別）

カテゴリー	保育者役 (N=9)		観察役 (N=42)		子ども役 (N=48)	
	件数	%	件数	%	件数	%
ねらいと内容の設定に関すること	1	11%	4	10%	3	6%
活動の流れと時間配分に関すること	4	44%	18	43%	22	46%
環境構成に関すること（物的・空間的）	7	78%	17	40%	35	73%
環境構成に関すること（人的）	2	22%	24	26%	13	27%
子どもの姿の予想に関すること	4	44%	4	10%	12	25%
保育者の援助、言葉かけに関すること	8	89%	41	98%	46	96%
職員間の連携に関すること	1	11%	14	33%	10	21%
事前準備・事前練習全般に関すること	4	44%	8	19%	8	17%

表7-2-2 模擬保育②直後の振り返りシートに見られた学生の気づき（役割別）

カテゴリー	保育者役 (N=12)		観察役 (N=37)		子ども役 (N=50)	
	件数	%	件数	%	件数	%
ねらいと内容の設定に関すること	0	0%	7	19%	8	16%
活動の流れと時間配分に関すること	6	50%	16	43%	16	32%
環境構成に関すること（物的・空間的）	7	58%	22	59%	25	50%
環境構成に関すること（人的）	1	8%	8	22%	11	22%
子どもの姿の予想に関すること	6	50%	5	14%	12	24%
保育者の援助、言葉かけに関すること	12	100%	35	95%	48	96%
職員間の連携に関すること	4	33%	19	51%	16	32%
事前準備・事前練習全般に関すること	6	50%	7	19%	7	14%

る。また、逆に「職員間の連携に関すること」が、模擬保育①に比べて、模擬保育②で高くなっている（25.3%→39.4%）。これは、模擬保育②が、2歳児という乳児クラスを対象にしたものであり、模擬保育①よりも保育者役の人数が多かったことが、その注目を高めた可能性があるものと推察される。「ねらい・内容の設定に関すること」もわずかではあるが、模擬保育①と模擬保育②で増加が見られる（8.1%→15.2%）。これは、模擬保育①を終えた後の全体での振り返りで、教員があるクラスでその重要性についてふれて解説したことが、2回目の模擬保育②でそれに着眼する学生が増えた可能性が考えられる。

表7-2-1、表7-2-2は、模擬保育を終えた直後の振り返りシートに見られた学生の気づきを、「役割別」に見たものであるが、興味深い特徴が伺える。「全体」で見るときには低かった割合である「事前準備・事前練習全般に関すること」と「子どもの姿の予想に関すること」への気づきが、模擬保育①②ともに、「観察役」「子ども役」に比べて、「保育者役」で高くなっている。「保育者役」の経験者が少なく分母が小さいので単純な比較はできないが、「事前準備・事前練習全般に関すること」と「子どもの姿の予想に関すること」は目に見えにくいことではあるが、「保育者役」を担って責任ある立場に立つことで実感されやすくなる可能性を示唆している。一方、「職員間の連携に関すること」に注目すると、「観察役」が他の役割に比べて高い割合を示している。これは、保育の外側から保育者の動きを眺められる位置にあることから、それへの気づきを促進していることが伺える。

## 2. 最終レポートに見られた学生の気づき

表8は、最終レポート（全体での振り返りを終えた後）に見られた学生の気づきを示したものである。「全体」で見ると、最も高い割合を示しているのは「保育者の援助、言葉かけに関すること」（82.2%）で、次いで「ねらい・内容の設定に関すること」（79.2%）が挙がっており、いずれも8割前後の高割合である。続いて「環境構成に関すること」（人

表8 「最終レポートに見られた学生の気づき」

カテゴリー	全体（N=101）		保育者役経験群（N=21）		保育者役非経験群（N=80）	
	件数	%	件数	%	件数	%
ねらいと内容の設定に関すること	80	79.2%	19	90%	61	76%
活動の流れと時間配分に関すること	32	31.7%	6	29%	26	33%
環境構成に関すること（物的・空間的）	29	28.7%	4	19%	25	31%
環境構成に関すること（人的）	64	63.4%	12	57%	52	65%
子どもの姿の予想に関すること	45	44.6%	7	33%	38	48%
保育者の援助、言葉かけに関すること	83	82.2%	17	81%	66	83%
職員間の連携に関すること	13	12.9%	2	10%	11	14%
事前準備・事前練習全般に関すること	61	60.4%	12	57%	49	61%

的)」(63.4%)、「事前準備・事前練習全般に関すること」(60.4%)が約6割、以降「子どもの姿の予想に関すること」(44.6%)「活動の流れと時間配分に関すること」(31.7%)、「環境構成に関すること（物的・空間的)」(28.7%)「職員間の連携に関すること」(12.9%)となっている。模擬保育を終えた直後の振り返りシートに見られた気づきで低かった「ねらい・内容の設定に関すること」「環境構成に関すること（人的)」「事前準備・事前練習全般に関すること」「子どもの姿の予想に関すること」への気づきが大きく増加している。これは2回の模擬保育を終えた後の全体での振り返りで、学生同士の気づきの交流や教員の講評等が行われたことで、模擬保育直後の個人での振り返りでは気づけなかった観点が見えるようになったことが伺える。

#### Ⅳ まとめと今後の課題

4年制大学における2年次前期「保育内容総論」における模擬保育を振り返りながら、学生の気づきについて考察してきた。保育に関する基本的知識が浅く、実習経験の無い段階であっても、朝の会から主活動までを視野において総合的な保育の展開を学ぶことを目的としつつ、できるだけリアルで具体的なクラス・子どもの姿を状況設定しながら、学生全員が共通の指導案作成に取り組み、全員で模擬保育の振り返りを丁寧に行うことで、多様な学生の気づきを引き出すことができたと考える。

今回の2回の模擬保育で「保育者役」を経験した学生（「保育者役経験群」）と、経験していない学生（「保育者役非経験群」）とに分けてみると、事柄によって、気づきに若干の差異が伺えたが、全体での振り返りで、お互いに感じたこと、気づいたことを交流し合うことで、多様な学びを得ることができた。一方で、模擬保育直後の振り返りでは気づきの高かった項目が低くなっているものもあり、その検討が必要と考えられる。

文部科学省の委託を受けて一般社団法人保育教諭養成課程研究会が作成した幼稚園教諭養成のモデルカリキュラム<sup>7)</sup>には、「保育内容総論」の到達目標の一つとして「模擬保育を通して、ねらい及び内容に沿って総合的に指導する力を付ける」ことが記されている。先行研究には「保育内容総論」における模擬保育を検討したものは少ないが、今後は「保育内容総論」でも増えていくことであろう。しかし、園生活全体を視野に入れた総合的な指導を学ぶことが特徴である「保育内容総論」において、90分の授業の中でその学びを可能にする模擬保育の実施は容易ではない。他の保育内容5領域科目や、教職実践演習、実習指導等の科目間との連携のなかで、より効果的な模擬保育が展開できるよう考えていく必要がある。



注

- 1) 田爪宏二・小泉裕子 2006保育者志望学生の「保育者アイデンティティ」確立に関する検討：模擬保育の実践を通して、鎌倉女子大学研究紀要13号 pp. 27-38
- 2) 中田（後藤）範子・柳瀬洋美・渡邊真理2014 『共に育つ保育者養成』の探求2—保育実習Ⅱ（保育所実習）に向けた保育実習指導のあり方—、東京家政学院大学54号 pp. 9-23
- 3) 池田充裕2013 模擬保育による学生の教授力・評価力の向上に関する取り組みと課題：ビデオ撮影による自己評価とピア評価・教員評価の効果の検証、山梨県立大学人間福祉学部紀要8号、pp. 61-72
- 4) 高原和子・瀧信子・矢野咲子2016 保育内容（表現）身体表現指導における模擬保育後のふりかえりに関する一考察、福岡女学院大学紀要人間関係学部編17号 pp. 23-28
- 5) 林富公子2017 「子どもの姿」を理解するということ：乳児保育Ⅱにおける模擬保育の概要を通して、夙川学院短期大学教育実践研究紀要11号 pp. 48-59
- 6) 井口2018 教育実習事前模擬保育の『振り返り』の改善、豊岡短期大学論集14号 pp. 143-152
- 7) 無藤隆代表保育教諭養成課程研究会編2017 『幼稚園教諭養成課程をどう構成するか～モデルカリキュラムに基づく提案～』 萌文書林